

Symbio Mail Magazine

特別号 No. 13 (2025年7月発行)

目次

吉川榮和会長の退任と吉川暹新会長による新体制の発足

令和6年度の活動

令和7年度の事業体制と取り組み

シンビオ・クイズ カーボンネガティブ って何？

吉川榮和会長の退任と吉川暹新会長による新体制の発足

シンビオ社会研究会のNPO法人化以降の活動経緯は前号のメルマガ No.12 シンビオ・クイズ「シンビオの温故知識」(※次ページ右下参照)で紹介しましたが、その淵源の1998年から27年間シンビオ社会研究会の活動をリードされてきた吉川榮和会長は、昨年度総会での吉川榮和会長の1年間続投時の予告通り、本年5月29日開催の総会の終結で理事・会長を退任され、同日に吉川暹理事が新たに会長に昇任されて若干の理事を追加した新役員体制で令和7年度活動を指導されることになりました。本号は特別号として、総会当日の新体制発足を中心に前年度活動報告と令和7年度の事業計画をお知らせし、クイズは同日開催の第1回講演会のキーワードを取り上げます。

令和6年度の活動

令和6年度の事業では、『カーボンニュートラル実現へ再生可能エネルギーと原子力の協働』をシンビオ社会研究会 〒611-8202 京都府宇治市五ヶ庄 京都大学エネルギー理工学研究所内
E-Mail: symbio.research.office@gmail.com HP: <http://sym-bio.jpn.org/homepage.php>

主調にした社会啓発を中心に取り組みました。研究調査事業では、Ze研究拠点支援による企画型共同研究「複雑なエネルギーシステム運用保守のための先進的情報基盤高度化に関する実験研究」に参加メンバーも増やして積極的に取り組みました。また原文財団による選択型学習支援事業に新たに応募して、青森県六ヶ所村の日本原燃施設の見学会を行いました。



写真は六ヶ所原燃PRセンターでの見学者集合写真

令和7年度の新体制と取り組み

5月29日の総会とその前後の理事会で確定の令和7年度役員構成は以下のとおりです。

役職	氏名
理事 会長	吉川暹
理事 副会長	森下和功
理事 副会長	塩路昌宏
理事	五福明夫
理事	石原慶一
理事	永里善彦
理事	中村洋之
理事	新田純也
理事	堀池寛
理事	大鋸屋将樹

理事	安部正高
理事	篠原真毅
理事	森井 孝
理事	路次安憲
理事	三島嘉一郎
理事	河本晴雄
理事	岩切宏友
監事	吉田民也
監事	藤井有蔵

以上の役員の任期は令和8年度通常総会までで、同総会では役員全員が改選されます。

また令和7年度の顧問として新田 隆司、寺井隆幸、門 信一郎、秋元 圭吾、松岡 猛の5氏に委嘱され、令和7年度定款変更で新設された名誉会員として吉川 榮和氏が推薦されました。また新会長から次のような令和7年度の活動計画が提起され、採択されました。

2050年カーボンニュートラル実現に向けて原子力と再生可能エネルギーの両輪をベースに我が国のエネルギーを支える第7次エネルギー基本計画にそって当会も昨年来事業を推進します。

社会啓発を趣旨とするシンビオ講演会の開催では、次世代太陽電池、水素エネルギーおよび次世代原子力について、第7次エネルギー基本計画でのこれらの技術挑戦課題を取り上げ、その方面の識者を講師に招いたシンビオ講演会を開催します。

研究調査では京大エネルギー理工学研究所のゼロエミッション (Ze) 研究拠点の支援による共同研究で、原子力へのAI応用と大学からのパブリ

ックアウトリーチの2つのテーマについてチームを組んで共同研究を進めます。また、次世代太陽電池として期待されているペロブスカイト開発の企業イノベーションに資する連携事業を新たに立ち上げる予定です。出版計画では、まず再稼働が進展している軽水炉原子力発電所の長期運転に資する技術課題を展望する参考書籍を出版すべく準備を進めます。

基本的には前年度からの事業を継続発展しますが、当会の事業を支える体制を持続可能な組織とすべく、会員の増強・財政基盤の確立・事務局の強化という課題を解決すべく力を尽くす所存ですので、会員の皆様のご協力・ご支援と、諸行事への積極的な参加を切にお願い申し上げる次第です。

シンビオ・クイズ

カーボンネガティブ って何？

この13号の シンビオマガ シンビオ社会
クイズの回答 ジン12号へ 研究会事務局
へのE-Mail

[リンク](#)

[リンク](#)

[リンク](#)

